

## 第31期会長メッセージ：徳永 朋祥



地下水を私たちが直接目にすることは稀ですが、地下水は、私たちにとって重要かつ身近な水資源の一つです。また、地下水の存在とその挙動に興味を持つことは、私たちの生活に強くかわる様々な現象の理解や、自然と人類社会が上手に関わっていくにあたって重要な観点であるという認識は高まってきているように思います。地下水が、水循環の構成要素の一つであることはよく知られており、最近では、水循環基本法並びに水循環基本計画に基づく健全な水循環の確保と地下水を含む水資源の持続可能な利用と保全が議論の遡上にあがっています。近々行われる水循環基本計画の改定とも相まって、地下水に関わる産・学・官・民の各々の立場から真摯な検討が求められています。また、地下環境は、私たちの高度な生活にとって重要な領域であり、それは、トンネル・地下街・地下を利用したユーティリティ施設といった私たちの生活に直結したインフラから、地下水を含む地下での流体挙動を積極的に活用した石油・LPGなどのエネルギー資源備蓄、放射性廃棄物の処分や二酸化炭素の地中貯留といった課題までが対象となります。地下水に関する深い理解は、水資源の確保、防災や減災、地下空間・地下環境の利活用といった視点を総合的に取り扱い、将来社会のデザインを進めるうえで鍵となるものです。

公益社団法人日本地下水学会は、自然科学・社会科学の枠を超え、また、産官学の強い連携を基盤とし、人間-自然系の構成要素の一つである地下水に関わる学問をリードする学会として活動を行っています。学会誌の発行、春季・秋季講演会の実施に加え、シンポジウム・セミナー・講習会や、委員会等がその活動の中心です。海外の関連学会等との連携に基づく国際的な活動も進めており、さらに、今後、地下水に関する様々な分野で活躍することが期待される若手の方々への顕彰も積極的に行っています。

「地下水に関する知の集積の場」としての学会の様々な活動を通じ、人類社会と自然環境がともにより豊かになることに貢献することが学会の目標であると考えております。日本地下水学会の活動への皆さんの積極的な参画をお願い申し上げます。

## 会員資格と特典

### 1. 会員資格および年会費

- 正会員：本会の目的に賛同する個人  
「年会費 9,000 円」  
準会員：地下水の研究に関心を有する学生  
「年会費：4,000円」  
特別会員：本会の目的に賛同する団体  
「年会費：一口40,000円、一口以上」  
名誉会員：本会に多大な貢献をした70歳以上の会員

### 2. 会員特典

#### 1) 正会員・準会員

- ① 会誌一部(年4回発行)を受け取ることができます。
- ② 講習会等に会員価格で参加することができます。
- ③ 会誌に論文等を投稿でき、講演会で発表できます。

#### 2) 特別会員

- ① 一口あたり会誌1部(年4回発行)を受け取ることができます。
- ② 講習会に一口あたり2名まで会員価格で参加することができます。
- ③ 講演会での展示を行うことができます(有料)。
- ④ 特別会員のホームページを学会ホームページにリンクすることができます。

### 3. 入会申し込み方法

電子メール、郵便、FAXのいずれかにより入会申込書を学会事務局までご送付ください。詳しくは学会ホームページより「入会申し込み」をご覧ください。

#### 〈お問合せ・入会申し込み先〉

〒104-0045 東京都中央区築地2-15-15  
セントラル東銀座1008  
公益社団法人 日本地下水学会事務局  
TEL/FAX：03-3549-1135  
E-mail：chikasui@nifty.com  
ホームページ：http://www.jagh.jp/

20191001

公益社団法人

# 日本地下水学会の ご案内



※ 久留里の自噴井戸(平成の名水百選、千葉県君津市)



公益社団法人 日本地下水学会  
Japanese Association of Groundwater Hydrology

# 学会概要

## 1. 目的

日本地下水学会は昭和34年（1959年）に設立され、その後任意団体として活動してきました。平成21年（2009年）の学会設立50周年を期して、学会としてより高い社会的役割を果たすべく一般社団法人に移行し、さらに平成22年（2010年）には公益社団法人に認定され、現在は公益社団法人日本地下水学会として活動しています。

本学会は地下水に関する学問の発展、地下水の開発・保全に関する研究及び技術の広範な普及に関する事業を通して、地下水資源の保全と有効利用、地下水に関わる諸問題の解決に貢献し、社会の発展に寄与することを目的として活動しております。本学会は地下水に関わる理学・工学・農学などの幅広い分野の研究者・技術者を擁しており、会員数は約800名となっています。

地下水は水資源の重要な一角を占め、生活・工業・農業用水などとして利用されており、国内のみならず世界においても水資源の供給源として重要性がますます高まっています。また、昨今の異常気象、沙漠化、酸性雨などに関連した地球規模の環境保全の必要性も高くなっており、CO<sub>2</sub>排出量削減の観点からは地下水が持つ熱エネルギー資源の有効利用システムも注目されています。その一方で資源的価値をおびやかす有機塩素系化合物・硝酸性窒素などによる地下水・土壌汚染も依然として解消されておらず、その解決策が求められているところです。

これらの問題に即応し、解決策を講じていくには学際的な知識の集積が必要とされ、本学会の果たすべき社会的役割が一段と高まっています。

## 2. 主な活動内容

前項の目的を果たすため現在下記のような活動を行っています。

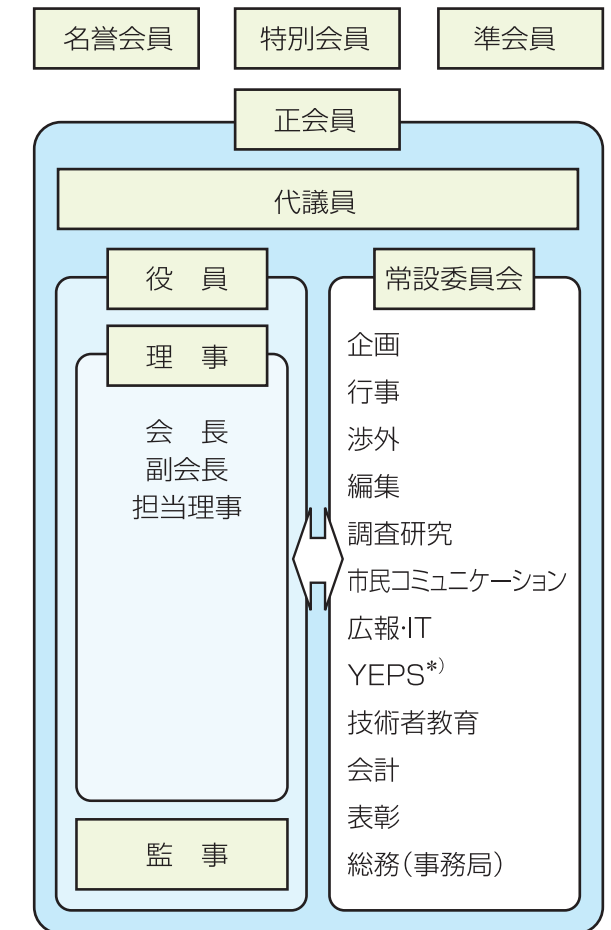
- ① 会誌の発行：年4回 地下水学会誌（Journal of Groundwater Hydrology）
- ② 学会講演会の開催：春季及び秋季（年2回）
- ③ シンポジウムの主催・共催・後援
- ④ 講演会・講習会の開催：地下水技術に関する講演会・講習会など
- ⑤ 市民コミュニケーション活動：湧水巡りツアーなど
- ⑥ 研究グループによる活動：温暖化問題WG、地下熱利用WGなど
- ⑦ 海外調査団の派遣
- ⑧ 地下水に関わる書籍の出版
- ⑨ 若手支援・男女共同参画の推進
- ⑩ 表彰：学会賞、論文賞、技術賞、研究奨励賞、学会功労賞、若手優秀講演者賞

## 3. 出版物

- ① 「地下水用語集」(理工図書、2011)
- ② 「地下水シミュレーション—これだけは知っておきたい基礎理論」(技報堂出版、2010)
- ③ 「見えない巨大水脈 地下水の科学」(講談社ブルーバックス、2009)
- ④ 「地下水のトレーサー試験—地下水の動きを知る」(技報堂出版、2009)
- ⑤ 「新・名水を科学する—水質データから見た環境」(技報堂出版、2009)
- ⑥ 「地下水・土壌汚染の基礎から応用」(理工図書、2006)
- ⑦ 「雨水浸透：地下水涵養」(理工図書、2001)
- ⑧ 「地下水水質の基礎」(理工図書、2000)
- ⑨ 「続 名水を科学する」(技報堂出版、1999)
- ⑩ 「名水を科学する」(技報堂出版、1994)

## 4. 学会運営概要、組織

日本地下水学会では概ね正会員30人の中から1人の割合をもって選出される代議員をもって社員とされています。役員（理事、監事）は代議員総会の決議によって選任され、会長（代表理事）、副会長（業務執行理事）、各委員会担当理事、委員会参加メンバーにより、主に運営されています。



\*）若手支援・男女共同参画委員会の略称 (YEPS : Committee on Young members' support and Equal Partnership)